屋　上　緑　化　シ　ス　テ　ム　の　比　較

現在の屋上緑化市場で利用されている供給資材は、その大半を「土壌」が占め、土を用いた緑化工法が主体です。

これは新規建造物が中心で且つ既存建物の場合は補強改修を行ってから緑化を実施するものであり、決して簡易であるとは言えません。

このような「土壌」を使用する場合の緑化工法は、計画段階において耐荷重量の問題など、重量の分散や工事に費やす労務（人件費、大型重機等）、植生後の「土」の入れ替えや撤去改修、リサイクル性などの課題が多く存在します。

「かんたん緑化マット」は、このような問題を解決してくれます。

＜屋上緑化の価格体系＞

工法 / 現状	従来の屋上緑化システム	かんたん緑化マット
附帯工事	必要あり：耐荷重量 300kg／㎡に補強工事、建物総額の約 15%	不要：老朽化した建物は防水層をチェック、不良改修額＝1200 円～／㎡
製品設計価格	28,000 円～38,000 円／㎡	17,000 円／㎡
工事設計価格	9,000 円～11,000 円／㎡	6,000 円／㎡
荷揚げ・諸経費	別途	別途

＜代表的な市場流通製品のセグメント＞

メーカー：製品名	植栽	土壌基盤	基盤厚み (mm)	基盤重量 (kg/㎡)	湿潤時総重量 (kg/㎡)	施工性	環境要因
かんたん緑化マット	**芝生類 草本類 低木類**	**廃棄繊維ﾏｯﾄ＋再生ｵﾚﾌｨﾝ系樹脂＋ﾋﾞﾊﾞｿｲﾙ**	**t=55**	**15.2**	**51.5 (植栽重含む)**	**◎**	**植物体◎ リサイクル性◎ 断熱○**
田島ﾙｰﾌｨﾝｸﾞ：G-ｳｪｰﾌﾞｴｺﾑｼｽﾃﾑ	ｾﾀﾞﾑ類	多孔質人工土壌	t=40	20	56 (植栽重含む)	○	植物体× リサイクル性× 断熱○
竹中工務店：ｾﾀﾞﾑｶｰﾍﾟｯﾄ	ｾﾀﾞﾑ類	ｾﾗﾐｯｸ土壌	t=40	16	55 (植栽重含む)	―	植物体× リサイクル性× 断熱△
王子緑化：ｾﾀﾞﾑﾏｯﾄｼｽﾃﾑ	ｾﾀﾞﾑ類	特殊土壌＋ｵﾚﾌｨﾝ系樹脂	t=56	12.6	55 (植栽重含む)	△	植物体× リサイクル性× 断熱○
テクノウェーブ：ｹｲｿｲﾙ・ｴｺﾋｰﾘﾝｸﾞｶﾞｰﾃﾞﾝ	ｾﾀﾞﾑ類 コケ類 芝生類	人工軽量土壌	t=230	150	238 (植栽重含む)	×	植物体◎ リサイクル性× 断熱◎
共同ｶｲﾃｯｸ：スクエアターフ	芝生類	軽量人工土壌	t=75	40	79 (植栽重含む)	◎	植物体◎ リサイクル性× 断熱△
ﾘｰﾄﾞｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ：生芝ﾏｯﾄ ｼﾊﾞｼﾊﾞ	芝生類	赤玉土＋亜鉛銅板容器	t=65	33	68 (植栽重含む)	◎	植物体◎ リサイクル性× 断熱△
ドコー：エクセロ・フロー	牧草類 ﾊｰﾌﾞ類	人工軽量土壌	t=60	30	63 (植栽重含む)	×	植物体◎ リサイクル性× 断熱○